

今月の山柳



人生には、つまずきが多い。その度に、それを乗り越え、生きる道を教えてもらった。それは、一休みして考えるチャンスでもあった。人生七転び八起きである。まだまだ転びそうな八十路坂である。つまずいた石もこの頃 懐かしい 八女川柳会 安達昇

矢部川源流・杣の里の四季 ③③

ゲンノショウコ(現の証拠)[フウロソウ科]

ゲンノショウコはフウロソウ科の多年草、開花時期は7～8月。胃腸病に効く生薬として大変有名、和名は「(胃腸に)現に良く効く証拠」を意味する。別名に玄草(げんそう)、または、種子の形から神輿草(みこしぐさ)ともいう。

白花は平地では見かけないが矢部村の釈迦・御前岳のブナ林周辺の標高の高い所では出会うことができる。白花はめしべの柱頭(先端)のピンク色が映えて可憐である。

(黒木町) 松尾 重根



黄櫨の会 公開講座 聴講無料

日時 7月26日(土) 1時30分 会場 八女市社会福祉会館 演題 南朝の息吹きを今に伝える「五條家の歴史」 講師 五條元滋氏 五條家二十五代当主 八女学院高校教諭

日中友好中国語自主講座のお誘い

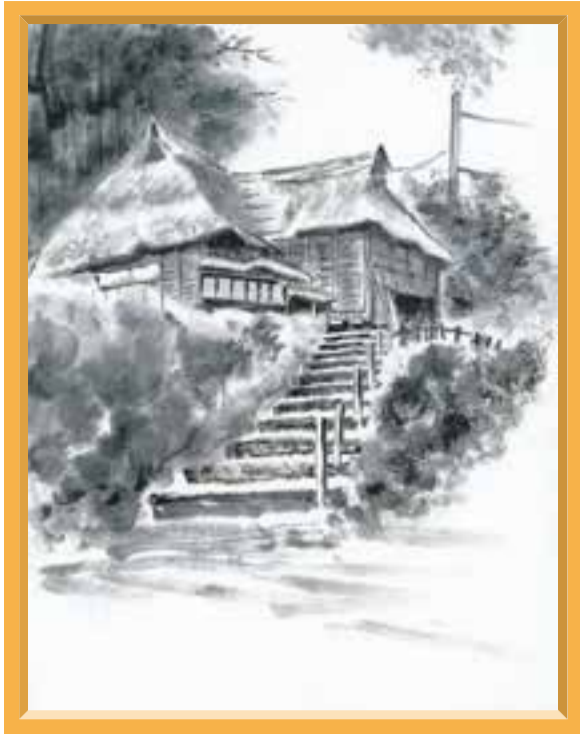
中国語を楽しく学習しています。この講座は、かつて八女市が八女茶発祥のご縁で、友好関係にあった中国蘇州市との交流を深めようと始まったものをルーツとしております。それから形は変わっても、日中友好の灯を消してはならないと、今日まで継続しています。代表は大石五十二さん、講師は北京生まれの孔繁瑛さん。大らかで、明るくて、教室には笑いが絶えません。孔さんは中国語の指導のほか、中国の歴史文化等、現在の中国の実情をふまえた色んな話をしてくれます。ところが、今の日中関係はどうでしょうか。彼も現状を憂慮して、「もつと両国の人々が、積極的に交流を深めると、お互いの誤解が解けて、良い関係が築けるのにな」と言っています。講座は毎月三回、火曜日午後六時半から

おりなす八女の研修室。経費は皆で負担します。初心者も大歓迎、興味がある方、一度見学にお出でませんか。問い合わせは石松憲治0943-2215202までどうぞ。



立花短歌会 修学の旅を楽しむ生徒らの未来は珍島の海に奪われる 井上 精 若葉茂り風薫るわが山里に久々に泳ぐ一対の鯉 橋本 泰州 大藤に願いかけたる姫御前命つきても花は咲き 松尾ミサキ おり 温かささわやかさ増すれんげ祭戸外で遊ぶ子供らの声 鶴隆 治郎 大陸からの飛来物今日は無く清々しきかなこの五月晴れ 中島 睦美 道の駅の天井高き憩場に巣作りはげむツバメ二羽見ゆ 中村サチ子 新築の家にアカメの垣根あり夕日をうけて白壁に映ゆ 野中 裕政 五月晴れ平山の湯に妻と来てたけの子掘りの身体癒さん 田中たつじ

街かど gallery



広川町一條 近藤 洋治

我が家に一幅の掛軸がありました。正月になると母が床の間に飾り、過ぎるとしまっていました。

大きな岩山の麓に庵があつて、溪谷にかかった橋の上に、一人の翁が庵の友人に逢いに行っている様子です。よく見かけられる構図ですが、昼見ると、夜見るのでは庵の茅葺き屋根に見えたり、岩山の一部に見えたり、何とも不思議な絵でした。子供心に大きくなったなら、いつか描いてみたいと思っていました。

御縁がございまして中島先生の御指導のもと勉強しております。墨の濃淡・筆運び・ぼかし・にじみ等で情景や色彩までもが表現できる奥深さに、一歩でも二歩でも近づけたらと思っています。

中島美代子先生 門下生水墨画展

●みはる会●緑水会 ●はつらつ水墨画●立花水墨画の 4教室の会員の作品約40点を 展示します

期間 7月17日～7月23日 会場 おりなす八女回廊



クラッシー文芸

黒木町くすの実俳句会 穀雨来て名も知らぬ草競ひ出る 吉泉 守峰 幾百と繋ぐ復興鯉幟 松尾アサ子

晩春の海に手合はず父母 悲し 東野 蓉子 暮れ残る光集めし葦の花 寺田 睦子

空抱く八百余年の楠若葉 青木 早弓 子を孕みやつれし姿竹の 鍋島 翔山 秋

八女睦句会 夏帽子押へタラップ降り 埴 呼秋

堀越えの桜桃一果頂きぬ 松尾 貞義 粽解く括りし紐の長さかな 城戸 和子 風なくて不満顔なる鯉のぼり 大坪 栄子 をちこちと山膨らます樵の花 穴見ミキエ 耳元の鳴く蚊拂へど拂へども 牛島佐智子 温度差のありて戸惑ふ衣更 山口 弘子

立花町立花俳句会 独り居の気ままくすぐる 番ひ蝶 吉泉 守峰 掘り屑の片付かぬまま竹の秋 末継ミヨ子 串団子焦げ目の香る牡丹園 西島志乃美 鶯も朝の渡船に急ぎ足 武田 行夫 初蝶やキャベツはしかとガードする 樋口 力

上陽町陽泉俳句会 凜々しさを空に捜せと武者幟 城後 正子 繰り返す若葉化粧に吾は老いぬ 吉泉 守峰 山藤やここよりいよ行者道 大坪 延子 遠き日に取りて束ねし茅花の穂 中村 境子 大型の機械が舐める田打ちかな 倉ノ下和代 境内は幽玄の香や藤の花 荒川ミヤ子 恋ひ焦がれ鳴き焦がれしか雨蛙 柴田 啓一 青葉窓世界を少し切りとりて 大坪 清香